

労働災害事故事例 報告書

死傷負傷事故・ひやりはつと実態調査

(平成26年4月～平成27年3月)



一般社団法人東北測量設計協会では平成7年度に事故防止委員会を設置し、労働災害の防止を目的として活動を続けて参りました。平成26年度から「労働災害アンケート調査」を年度毎に実施し会員の皆様からアンケートをお願いしております。

今回の調査の回収率は約80%と前回の回収率に比べ15%下がりましたが高水準でした。会員の皆様の労働災害防止意識の高さと、会員相互の意識の共有化に対して前向きにお考えいただいたことに対して深く感謝申し上げます。

今調査でも死亡事故の発生は無く、引き続き重大事故発生への安全管理は徹底されていると思われま

近年、UAV(ドローン)の測量設計分野への活用がされてきており、国土交通省のi-Constructionの推進に伴い今後さらに業務への活用が進むことと思われま

今回使用しましたアンケート用紙を日々のKY活動に活用することもでき、さらに、会員の皆様の情報の蓄積を図るツールとしてもご活用いただけます。

今回のアンケート調査にご協力を賜りました会員の皆様にお礼を申し上げますとともに、アンケートの集計に協力いただいた委員の皆様はじめ事務局、他委員会の皆様に併せてお礼を申し上げます。

平成28年11月14日
一般社団法人東北測量設計協会
技術委員会委員長 菊池 透

1. アンケート回収率

	第6回調査			第5回調査		
	H26.4～H27.3			H25.4～H26.3		
	会員数	回答数	回収率	会員数	回答数	回収率
青森県	7	6	85.7%	7	6	85.7%
岩手県	9	8	88.9%	9	9	100.0%
秋田県	9	7	77.8%	9	8	88.9%
宮城県	12	10	83.3%	12	11	91.7%
山形県	13	9	69.2%	13	13	100.0%
福島県	9	8	88.9%	9	9	100.0%
計	59	48	81.4%	59	56	94.9%

ここ数年は90%代の高い回答率でしたが今回は81%でした。
 会員の皆様には更にご協力をいただき労働災害防止の啓発をしていきたいと考えております。
 これからも継続的にアンケート調査をいたしますのでご協力をよろしくお願いいたします。

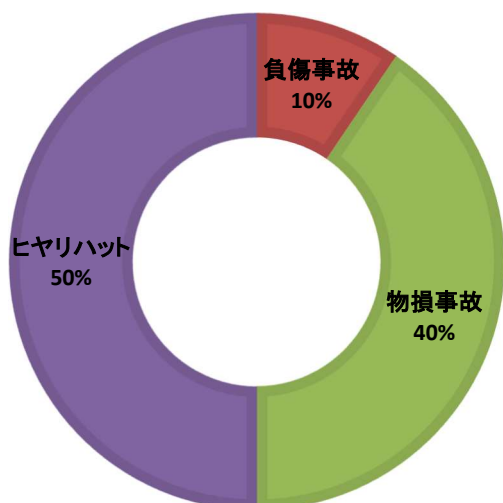
2. 労働災害の発生件数

※前回は昭和 50 年～平成 26 年 3 月まで、今回は平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月まで

		青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計
前回まで	死亡事故	0	2	2	1	0	1	6
	負傷事故	43	50	20	49	20	32	214
	物損事故	6	4	4	61	1	0	76
	ヒヤリハット	17	22	13	18	20	230	320
今回	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	2	0	0	0	1	1	4
	物損事故	0	0	0	14	2	1	17
	ヒヤリハット	1	1	3	6	5	5	21

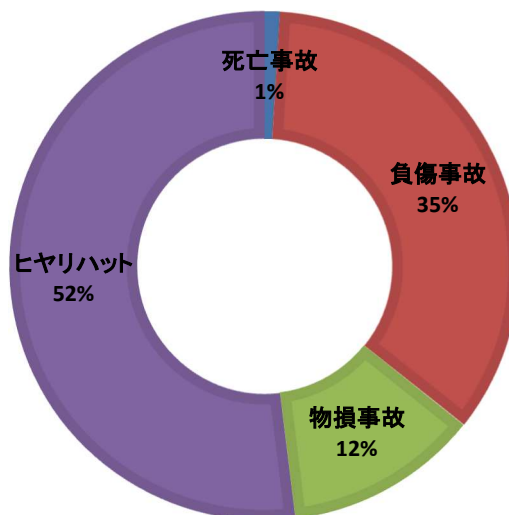
労働災害の発生割合 (H26.4～H27.3)

■死亡事故 ■負傷事故 ■物損事故 ■ヒヤリハット



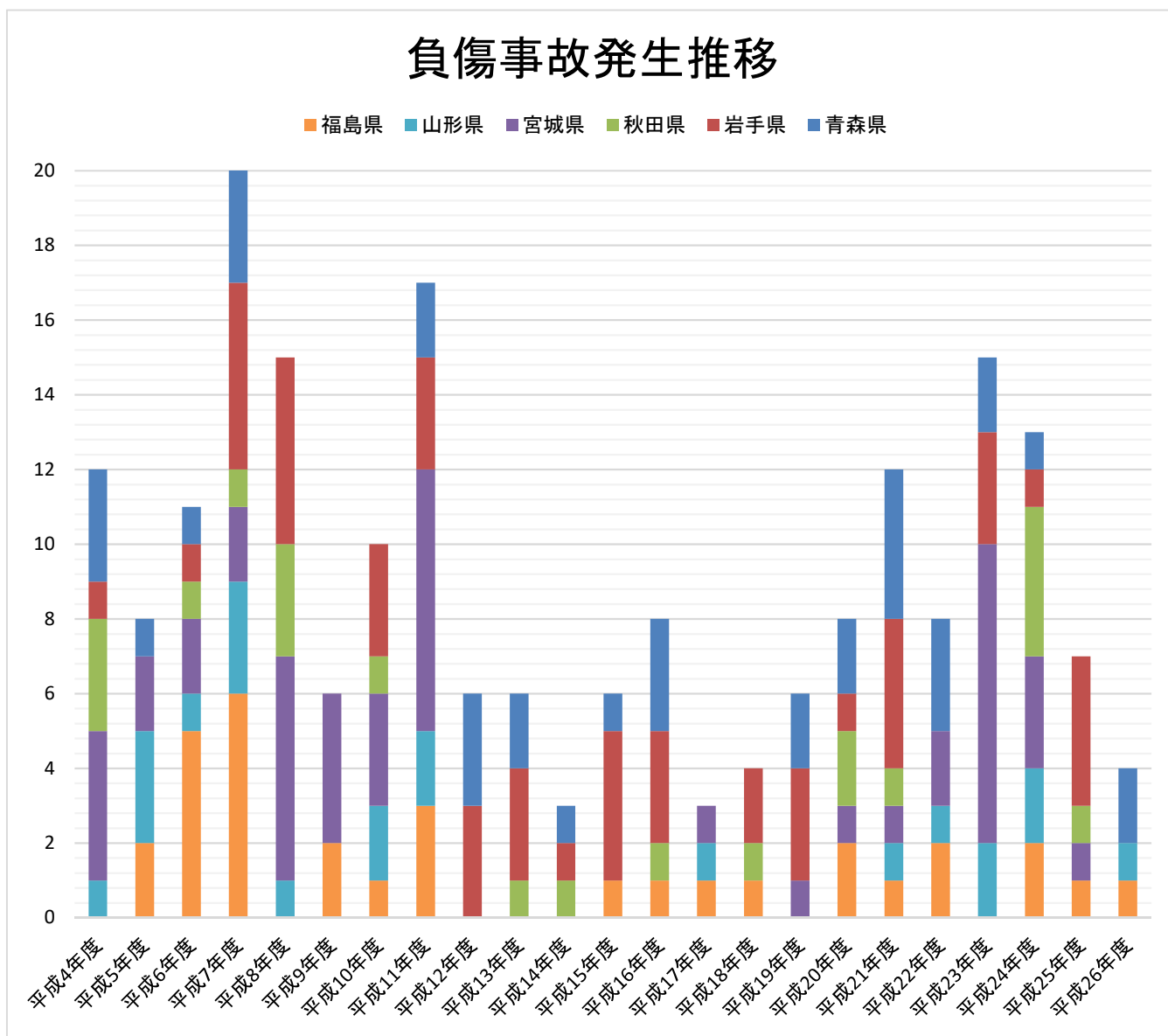
労働災害の発生割合 (S50.～H26.3)

■死亡事故 ■負傷事故 ■物損事故 ■ヒヤリハット



前回と同様、物損の事故件数が高い水準を保っている。幸い今回の調査でも死亡事故は発生しなかった。北東北「青森、岩手、秋田」では物損事故は発生しなかった。

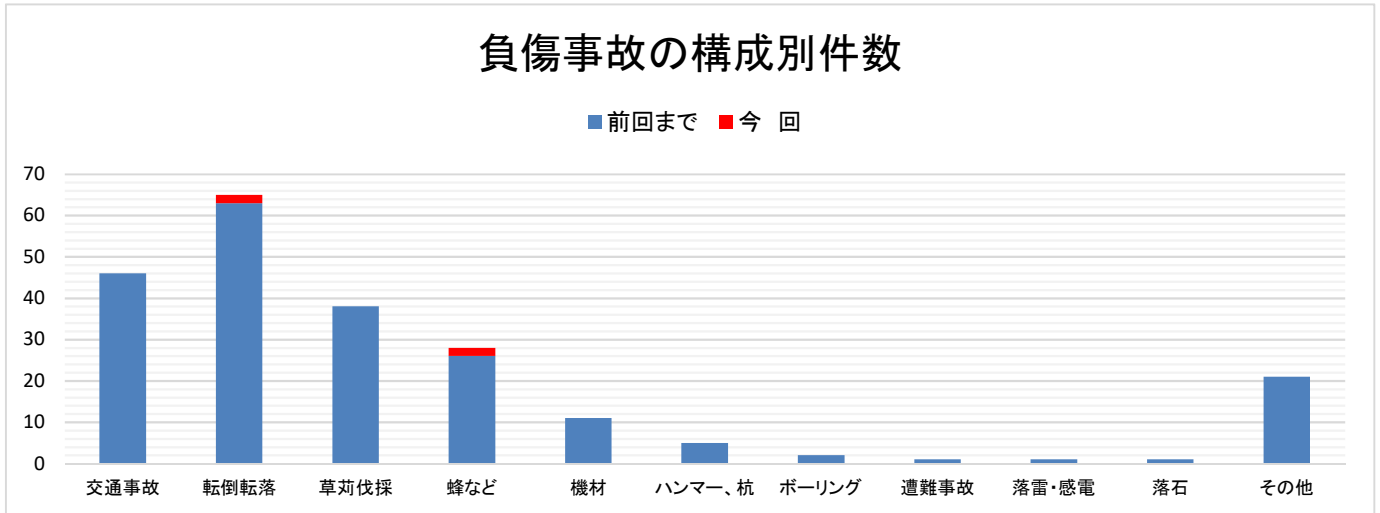
3. 負傷事故（労働災害）発生推移



今調査では平成18年度と同程度の低い発生件数になっている。各会員の啓蒙活動や発注者からの呼びかけによる安全意識の高まりと思われます。

4. 負傷事故の構成

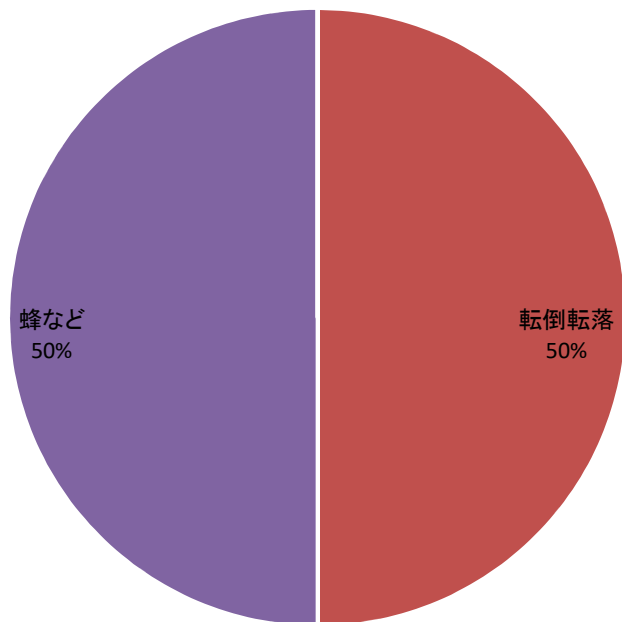
※ 前回は昭和 50 年～平成 26 年 3 月まで、今回は平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月まで



今調査の負傷事故の構成は「転倒転落」「蜂など」でした。前回までの調査では「転倒転落」「交通事故」「草刈伐採」で全体の68%を占めていました。車両、徒歩での移動の際は細心の注意を払って行動する事を求めるとともに、刃物等を使用する場面でも同様に注意を払う必要があります。

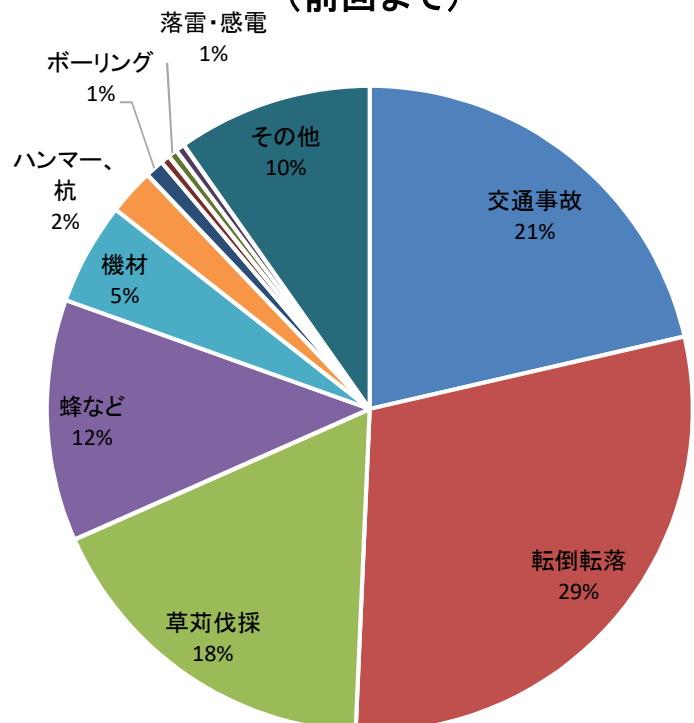
また、草刈や伐採での負傷事故の報告は無かったものの、蜂などによる負傷が増加しております。気象状況や現場状況によるものとも考えられますが、蜂などに対する抜本的な対策を検討する必要があります。

負傷事故の構成割合 (今回)



- 交通事故
- 転倒転落
- 草刈伐採
- 蜂など
- 機材
- ハンマー、杭
- ボーリング
- 遭難事故
- 落雷・感電
- 落石
- その他

負傷事故の構成割合 (前回まで)

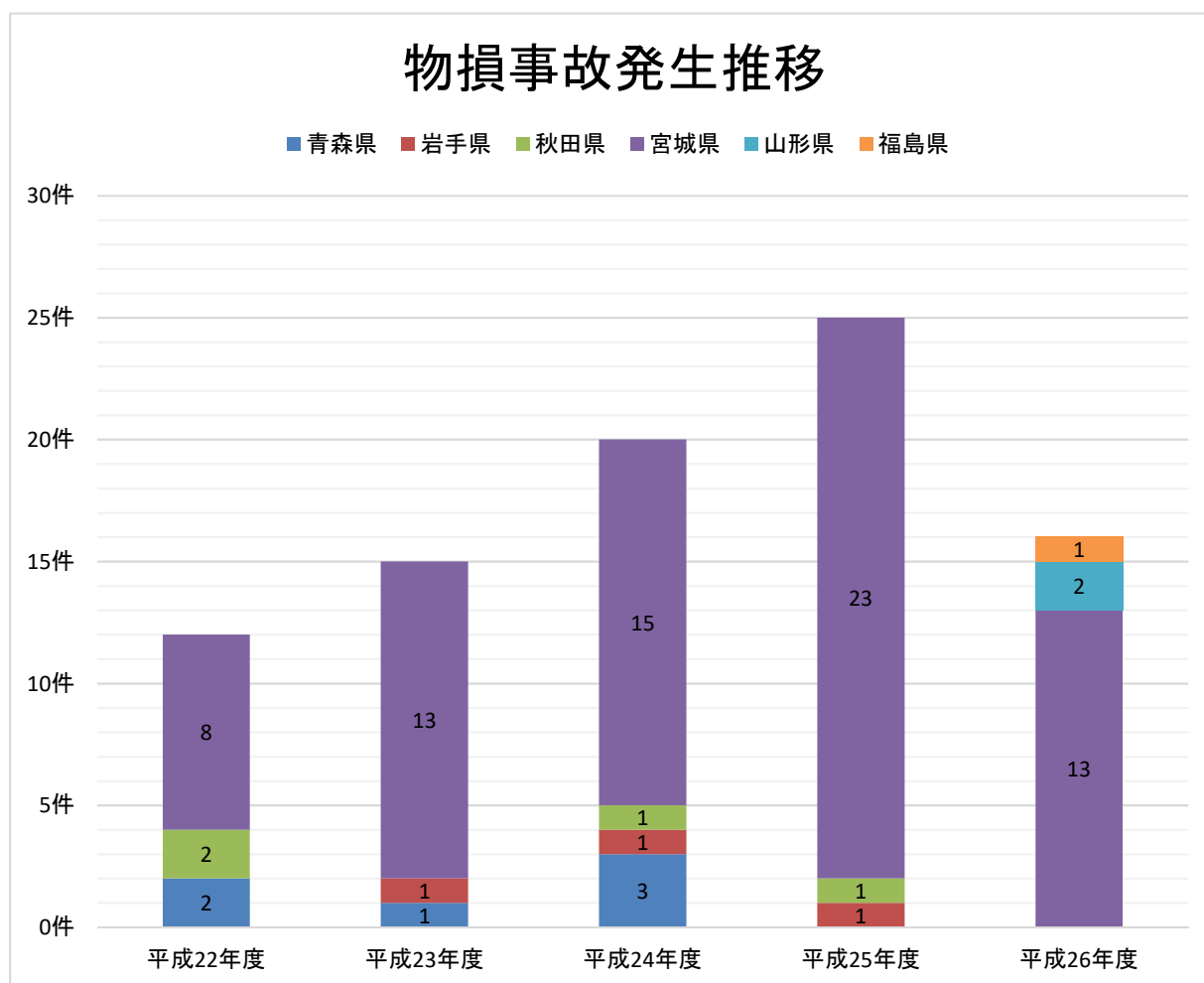


- 交通事故
- 転倒転落
- 草刈伐採
- 蜂など
- 機材
- ハンマー、杭
- ボーリング
- 遭難事故
- 落雷・感電
- 落石
- その他

5. 負傷事故（労働災害申請）おもな事例

所在	発生日	災害内容	事故原因	発生概要
青森県	2014/8/20	現場作業	蜂など	ナタを使用して、伐採している時に左手薬指に蜂が止まって刺された。
青森県	2014/9/30	現場作業	蜂など	ため池調査のための機材搬送中に、地中にあった蜂の巣を踏み、蜂に刺された。
山形県	2014/11/28	現場作業	転倒・転落	道路の路肩付近においてボーリング作業中、足場上でロッド（長さ6メートル）が道路側に倒れ通行車両に衝突し、作業員が通行車両とロッドの衝突音に驚き、あわてて逃げようとしてステップ上から落下し頭部を負傷した。
福島県	2015/3/20	現場作業	転倒・転落	雨量観測所の点検作業中において、屋上から脚立兼はしごを使って降りる際、開閉金具のロックが外れ、バランスを崩し、約2メートルの高さから落下した。落下した際、地面に腰を打ち、左手薬指の指先を裂傷した。

6. 物損事故発生推移

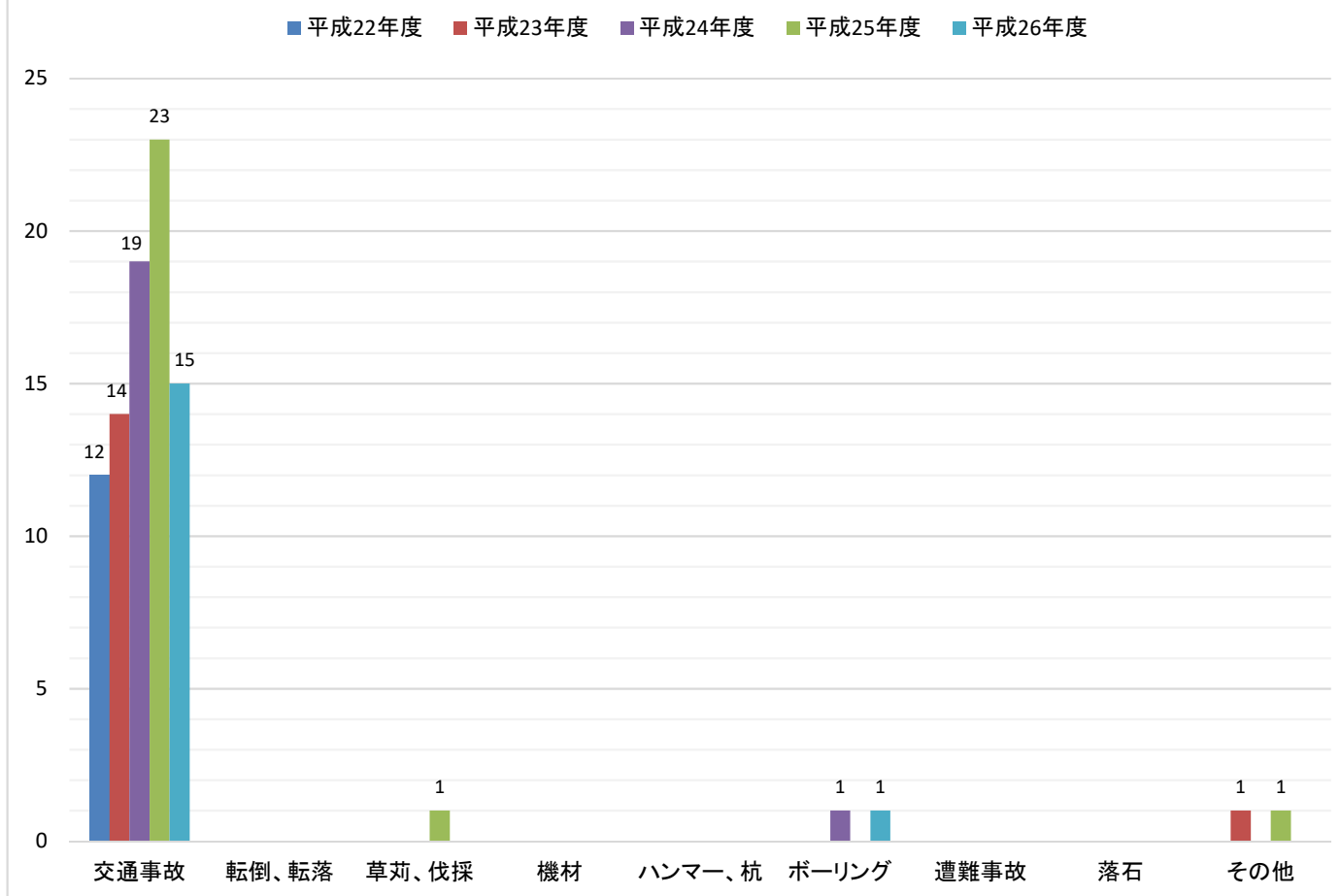


物損事故は年々増加傾向にありましたが今回の調査で減少に転じました。震災前の平成22年度と比べるとまだ高い水準です。

7. 物損事故構成年度別

	交通事故	転倒、転落	草苻、伐採	機材	ハンマー杭	ポーリング	遭難事故	落石	その他	計
平成22年度	12	0	0	0	0	0	0	0	0	12
平成23年度	14	0	0	0	0	0	0	0	1	15
平成24年度	19	0	0	0	0	1	0	0	0	20
平成25年度	23	0	1	0	0	0	0	0	1	25
平成26年度	15	0	0	0	0	1	0	0	0	16

物損事故の構成年度別



物損事故の大半は、交通事故です。現場作業は勿論の事、打ち合わせ時や通勤途中の交通事故が報告されています。業務量の増大により、過労や居眠り注意散漫による不注意等、普段の健康管理にも注意を払う必要があります。

8. 物損事故事例

所在	発生日	災害内容	事故原因	発生概要
山形県	2014/6/29	現場作業	交通事故	交差点（信号なし、付加車線なし）国道優先で、県道を走行し交差点で（自車）一時停止した。国道から県道への右折車2台が停止し道を譲られた。右側確認後国道を横断中に左側直進車と接触した。
山形県	2014/11/28	現場作業	ポーリング	国道路肩付近においてポーリング作業中、足場上でロード（長さ6メートル）が道路側に倒れ通行車両に衝突し、サイドミラーとアルミボディを破損した。運転者にケガは無し。
宮城県	2014/12/25	現場作業	交通事故	国道を走行中に路面凍結の為、スリップし、中央分離帯接触後、路肩歩道縁石を飛び越え空き地、仮設棚杭に衝突した。
福島県	2015/2/17	現場作業	交通事故	国道の2級基準点観測において、機材をおろすため国道脇に一時停車し機材等をおろし、観測点に向かう為営業していない店舗の駐車場に入り方向転換を行い、道路に出る際、高さ0.4メートルのブロックのコンクリート基礎に気づかず車両左後方側面を接触し、車両を破損してしまいました。ブロック基礎の破損はありませんでした。
宮城県	2015/3/11	現場作業	交通事故	作業車を空き地から町道にバックで移動中、道路の窪地に前輪が脱輪した。その際に車体の底部を路面に接触させ、エアクリーナー等が破損した。

9. ヒヤリハット報告件数

	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計(件)
平成22年度	1	0	0	0	0	0	1
平成23年度	1	0	0	0	0	0	1
平成24年度	1	2	3	2	0	2	10
平成25年度	0	0	2	3	0	3	8
平成26年度	1	1	3	6	5	5	21
県別合計	4	3	8	11	5	10	41

ヒヤリハットとは重大な災害や事故には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の事例の発見をいう。文字通り「突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの」である。報告件数を確認しますと平成22年と平成23年は1件、平成24年には10件本年度は21件の報告がありました。近年、会員の皆様の啓蒙活動によりヒヤリハットに対する意識の高さにより報告件数が増えてきているものと思われます。

報告の中では、「炎天下の中で意識がもうろうとした」と報告がありました。これは、既に軽度の熱中症を起こしていると考えられるため未然に防ぐ体策が望まれます。

10. ヒヤリハット報告事例

報告されたヒヤリハットの中から5例報告します。

所在	発生日	発生概要
宮城県	2014/7/25	<p><u>炎天下での作業のため意識が朦朧とした。</u></p> <p>●発生後の対応</p> <p>①日陰に移動して水分補給を行い、足を高くした。</p> <p>●反省点</p> <p>気象予報などを注意深くチェックする。</p> <p>●再発防止策</p> <p>①こまめに休憩を取り、水分、塩分の補給を行うこと。</p> <p>②健康状態の把握を徹底すること。</p>
福島県	2014/10	<p><u>橋台側から桁下に進入する際、普段は緩やかな勾配であるため転倒のおそれはないが、早朝は朝露により地面が濡れており転倒しそうになった。</u></p> <p>●発生後の対応</p> <p>①遠回りし安全な場所を選んで移動した。</p> <p>●反省点</p> <p>危険予知にて気づくべき点である。</p> <p>●再発防止策</p> <p>①トラロープ等の昇降するための道具の準備が必要であった。</p> <p>②作業前ミーティングの際に、一人では気づきにくい事もあるため多数の意見を聞くように心掛ける必要がある。</p>
岩手県	2014/11/7	<p><u>4級基準点観測中、熊が付近に出没した。</u></p> <p>●発生後の対応</p> <p>①安全状態が確保できるまでそのまま待機した。</p> <p>●反省点</p> <p>周りに果樹園が点在していたが、現場付近は造成工事中で重機での作業中で騒音もあったため、熊が出没するという考えがなかった。</p> <p>●再発防止策</p> <p>①山での作業時には、鈴等を持ち作業を行う。</p>

所在	発生日	発生概要
秋田県	2014/12	<p>現況はササやぶの斜面で倒木が所々に存在する。</p> <p>移動の際に、両手に機材（杭・カケヤ等）を持ち倒木のうえを歩いていて、バランスを崩し1メートルほど転落した。</p> <p>●発生後の対応</p> <p>①荷物は両手に持たず、片手は自由な状態にした。</p> <p>②足下を良く確認しながら移動した。</p> <p>●反省点</p> <p>①荷物は両手に持たず、片手は自由な状態で移動すれば良かった。</p> <p>②倒木の上を歩くのは5Mほどの短い距離だったため大丈夫だという過信があった。</p> <p>●再発防止策</p> <p>①危険な箇所では荷物は両手に持たず、片手（できれば両手）は自由な状態にする。</p> <p>②危険が伴う場合は、すべてにおいて大丈夫だと慢心しない。</p>
山形県	2015/1/9	<p>車両走行中に路肩に除雪された直径50cmの雪塊に気づかず衝突し、フロントバンパーを損傷した。</p> <p>●発生後の対応</p> <p>帰社後上司に報告し、修理依頼を行った。</p> <p>●反省点</p> <p>路面が新雪で覆われ雪塊が確認できなかった。除雪された雪が路肩にあることを予測し、走行に注意を払うべきであった。</p> <p>●再発防止策</p> <p>①だろうではなく、かもしれないと悪条件を予測して走行する。</p>